

製品名: TERT (9Y18) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18798**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IP 1:50-1:200
分子量	127kDa

抗原情報

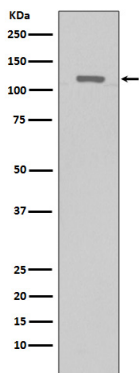
遺伝子名	TERT
別名	TCS1; HEST2; EST2; TRT; Telomerase reverse transcriptase; Telomerase-associated protein 2; Telomerase catalytic subunit;
遺伝子 ID	7015.0
SwissProt ID	O14746
免疫原	ヒトテロメラーゼ逆転写酵素の合成ペプチド

背景

テロメラーゼは、ほとんどの真核生物における染色体末端の複製に必須のリボ核タンパク質酵素である。前駆細胞と癌細胞では活性がある。正常な体細胞では不活性か、非常に低い活性である。テロメラーゼ ホロ酵素複合体の触媒成分であり、その主な活性は、酵素の RNA 成分内のテンプレート配列をコピーして染色体末端に単純な配列リピートを追加する逆転写酵素として働くことにより、テロメアを伸長させることである。テロメラーゼ活性は、テロメラーゼ複合体関連タンパク質、シャペロン、ポリペプチド修飾因子など、いくつかの因子によって制御されている。Wnt シグナル伝達を調節する。老化とアポトーシス防止で重要な役割を果たしている。テロメラーゼは、ほとんどの真核生物における染色体末端の複製に必須のリボ核タンパク質酵素である。前駆細胞と癌細胞では活性がある。正常な体細胞では不活性か、非常に低い活性である。テロメラーゼ ホロ酵素複合体の触媒成分。その主な活性は、酵素の RNA 成分内のテンプレート配列をコピーして染色体末端に単純な配列リピートを追加する逆転写酵素として作用し、テロメアを伸長させることです。6 ヌクレオチドのテロメアリピート単位 5'-TTAGGG-3' により、RNA 依存性の 3' 染色体末端伸長を触媒します。触媒サイクルには、プライマー結合、プライマー伸長、テンプレート境界に到達した後の産物の放出、または新生産物の転座とそれに続くさらなる伸長が含まれます。2 つまたは 3 つのテロメアリピートを含む基質に対してより活性です。テロメラーゼ活性は、テロメラーゼ複合体関連タンパク質、シャペロン、ポリペプチド修飾因子など、いくつかの因子によって制御されます。Wnt シグナル伝達を調節します。老化と抗アポトーシスにおいて重要な役割を果たします。

研究分野

画像データ



Hela 細胞溶解物における TERT 発現のウェスタン ブロット分析。